

養護教諭の専門性を生かした健康教育の在り方

～いのちを大切にする児童生徒の育成(性に関する指導を通して)～

海津市養護教諭部会

1 研究テーマ設定の理由

近年の急激な社会環境の変化が、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、生活習慣の乱れ、不登校やいじめなどの心の問題、薬物乱用や性に関する問題など、健康に関わる現代的課題を生じている。

海津市も、近年情報化社会が進んでおり、平成27年度海津市PTA連合会が行った保護者向けの情報モラルアンケートの結果（回答数 1,821）によると、インターネットができる環境の家庭は 99.0%に上り、児童生徒にとって身近な存在になっている。インターネットやSNSを長時間利用することで生活習慣を乱し、体調を崩して保健室へ来室する児童生徒も少なくない。また、インターネット等から得た情報を疑うことなく信じてしまう児童生徒や、コミュニケーション手段にSNSを使うことで、人間関係のトラブルを起こす児童生徒がいる。また、「ネットで知り合った人と会ったことがありますか」という質問に104人の児童生徒が、「会ったことがある」と回答している。

平成26年度の全国学力学習状況調査の結果、「自分に良いところがある」と答えた海津市の小学生は 69.6%（全国は 76.1%）、中学生は 57.5%（全国は 67.1%）であった。いずれも全国平均より下回っており、自己肯定感の低い児童生徒がやや多いことが分かる。自己肯定感の低さから、自分に自信がもてない児童生徒や、感情のコントロールが未熟で自他を傷つけてしまう児童生徒もおり、心の面でも問題が現れている。

海津市の教育の基本理念は、「いのちをつなぐ教育～愛情と思いやりに溢れた一人一人の生命がつながり『生きる喜び』を感じる教育～」である。海津市の児童生徒の実態や海津市の教育の基本理念を受け、性に関する指導を通し、自他の命を大切にする児童生徒を育成したいと考えた。

海津市養護教諭部会では、養護教諭の専門性を生かし、児童生徒の実態や発達段階、社会の変化に対応した性に関する指導に取り組むことで、児童生徒が性に関する正しい知識をもち、自ら考え、適切な行動選択ができるようにしたい。さらに、自己肯定感を高め、自他の命を大切にする児童生徒を育成したいと考え、本テーマを設定した。

2 願う子供の姿

「自己肯定感」「正しい知識」「意思決定・適切な行動選択」「コミュニケーション能力」を育成することにより、生命尊重・人間尊重・男女平等の精神に基づく正しい異性観や個人の違いを知り、よりよい人間関係を築くことができる。正しい情報を選択し、自ら考え、判断し、意思決定をする能力を身に付け、望ましい行動をすることができる。

3 研究仮説

9年間を見通した意図的・計画的な指導のもと、家庭・地域との連携を図り、効果的な指導を工夫すれば、性に関する正しい知識をもち、自ら考え、よりよい行動ができる児童生徒が育つであろう。

4 研究内容

研究テーマに迫るため、次の研究内容について実践を深めてきた。

(1) 効果的な指導内容や方法の工夫

①児童生徒の実態把握

全国学力・学習状況調査や海津市PTAの情報モラルアンケート等の結果、授業前のアンケートから、児童生徒の実態を把握した。また、家庭的に配慮の必要な児童生徒等を把握し、配慮内容を検討した。

②実践

ア 関心・意欲を高める指導方法

イラストや写真を用いて視覚的に分かりやすい提示資料・プレゼンテーションを作成したり、家庭で学習内容を振り返ることができるワークシートを作成したりすることで、意欲・関心を高めることができるようにした。

イ 主体的に学ぶことができる学習活動

体験的な学習を取り入れることやグループ活動によって、自分の気持ちや考えを仲間に伝えたり、多くの人と交流したりして主体的に学ぶことができるようにした。

③集団指導と関連付けた効果的な個別指導

学習内容を生かして、保健室で関わる児童生徒に個別指導をし、問題解決につなげた。

(2) 家庭・地域との連携

①事前の文書による連絡・事前事後アンケートの実施

保護者に対しては、事前に学習内容や授業日程を知らせたり、事前事後にアンケートを通して保護者の思いを聞いたりした。

②授業参観

保護者の関心や課題意識をより高め、家庭の協力を得られるようにした。

③ほけんだより・学校だより

授業の様子や児童生徒の感想等を掲載し、授業内容が保護者に伝わりやすいように工夫した。

④地域との連携

海津市PTA連合会が行った情報モラルアンケートの結果を活用したり、海津市内の各小中高校の代表の児童生徒、PTA連合会、学校、地域が協議して作成した「あったかい絆宣言」を活用したりした。また、社会福祉課と共催し、「こころといのちの講演会」を海津市内の中学校で開催した。

5 研究構想図

海津市の教育理念

「いのち」をつなぐ教育
 愛情と思いやりに溢れた一人一人の生命がつながり「生きる喜び」を感じる教育

【願う子供の姿】

○生命尊重・人間尊重・男女平等の精神に基づく正しい異性観や個人の違いを知り、よりよい人間関係を築くことができる。
 ○正しい情報を選択し、自ら考え、判断し、意思決定をする能力を身に付け、望ましい行動をすることができる。

自己肯定感

正しい知識

意思決定・適切な行動選択

コミュニケーション能力

【研究テーマ】 養護教諭の専門性を生かした健康教育の在り方
 ～いのちを大切にす児童生徒の育成（性に関する指導を通して）～

研究内容 1
効果的な指導内容や方法の工夫

児童生徒の実態をもとに、指導内容や指導方法を工夫することで、自他の個性を尊重し、望ましい人間関係の構築につながる性に関する指導を行う。

研究内容 2
家庭・地域との連携

学校・家庭が性に関する指導の重要性を認識し、それぞれの役割を理解し、お互いに連携・協力することで、より効果的な指導を行う。

改善 (C・A)

・事前打ち合わせ ・実践、検証

実践 (D)

・授業モデル、ワークシート、資料、板書計画の作成

情報の共有・計画 (P)

・事前アンケートの実施

実態把握 (R)

授業参観・講演会

理解と協力

保健だより・学校だより

児童生徒・保護者の性に関する意識、行動の傾向をつかみ、指導に生かす。

アンケートの実施

9年間を見通した意図的・計画的な指導

教育活動を性に関する指導の視点で見直し、意図的に配列して行うことで、系統的・計画的な指導を行う。

【保健室】

- ・日常生活
- ・健康相談
- ・個別指導

【児童生徒の実態】

- ・様々な性情報に触れ、誤った知識や性行動について安易なとらえ方をしている児童生徒がいる。
- ・素直な児童生徒が多いが、自分で意思決定する能力や適切な行動選択することに弱さがある児童生徒が多い。
- ・自己肯定感が低く、感情のコントロールができなかったり、SNSでのトラブルを経験したりするなど、コミュニケーションが苦手な児童生徒が増えている。

7 研究実践

研究内容 1 効果的な指導内容や方法

(1) 自己肯定感

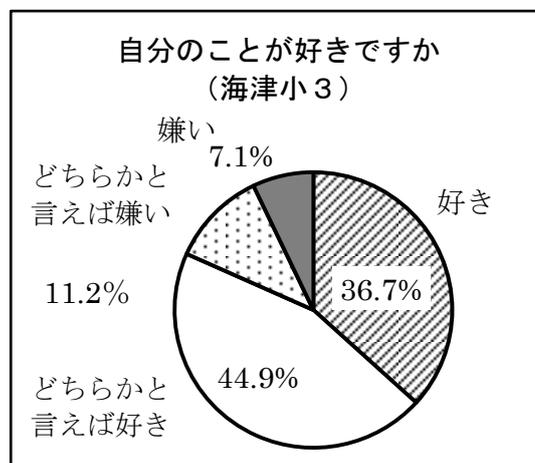
①児童生徒の実態

授業前の自己肯定感に関するアンケートを実施したところ、自分のことが「好き」と答えた児童は全体の 36.7% という結果であった。日常の学校生活の中でも「自分にはどうせできない。」とすぐにあきらめたり、人と比べて自分に自信がもてなかったりする姿も見られた。

小学校段階では、10歳前後になると、思春期に近づき、心が揺れ動きやすくなる時期である。また、個々での活動から少しずつグループを作り、仲間との関わりを形成していく時期で

もある。しかし、仲間との関わりの中でトラブルになることや、自分や友達を大切にできない場面も多くある。

そこで、自分がたくさんの人とつながっていることを実感させ、自己肯定感を高めていく必要がある。



②実践 小学校第3学年 学級活動「いのちのつながり」

<本時のねらい>

たくさんの人に支えられている自分の命に気付き、自他の命を大切にしようとする気持ちをもつことができる。

ア 関心・意欲を高める指導方法

命のつながりを理解しやすいワークシート「いのちの表」を作成した。また、黒板には、これと同じ物を拡大して貼り、視覚的に捉えやすいようにした。このワークシートを使って、自分や家族、その先祖をたどる活動に取り組むことで、児童は、多くの命がつながって自分があることに気付くことができるようにした。

イ 主体的に学ぶことができる学習活動の工夫

【導入】

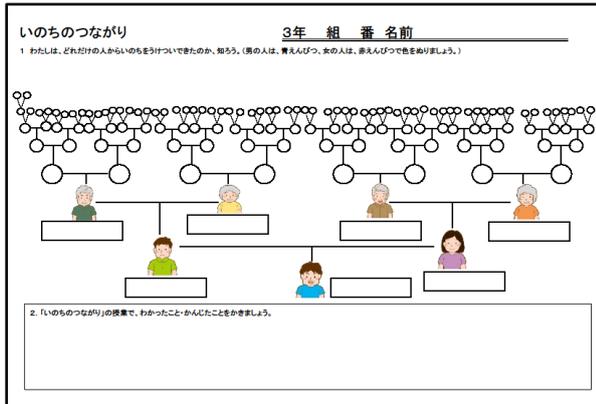
・絵本「いのちのまつり」の読み聞かせを行い、一人一人が多くの人とつながっていることに気付くよう意見交流の場を設定する。

・自分が誰とどんなところが似ているかを探することで、自分とつながっている人について考える場を設定する。



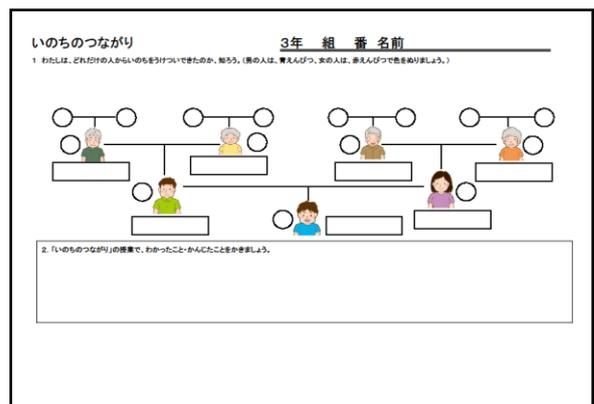
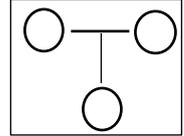
【展開 パターン1】

- ・自分の命が母親、父親とつながっていることを知る場を設定する。(命の起源)
 - ・「いのちの表」に色を塗り、多くの命とつながっていることを知る場を設定する。
- 一人一人が大切な命。誰がかけても命が繋がらない。



【展開 パターン2】

- ・ワークシートに右図「いのちのつながりマーク」を使用し、命のつながりについて考える場を設定する。
- ・「未来マップ」を使い、自分たちも命をつなげる役割をもっている大切な存在であることに気付けるようにする。



【まとめ】

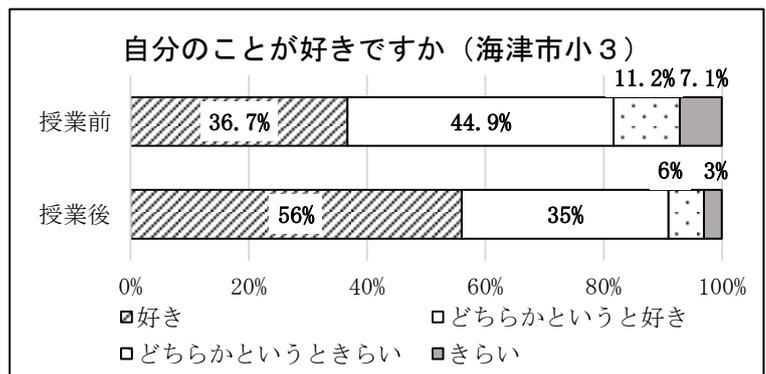
- ・命のつながりについて分かったこと、感じたことを交流する場を設定する。

自分の命はかけがえのないものであると気付くことができる。

自分の命は多くの人とつながっていることを知り、大切だということが分かる。

<児童の変容>

授業後のアンケートからは、自分のことが「好き」と答える児童が36.7%から56.0%に増え、自己肯定感が高まった。また、自分の存在やいのちの大切さに気づき、いのちを大切にしようとする感想が多く書かれていた。



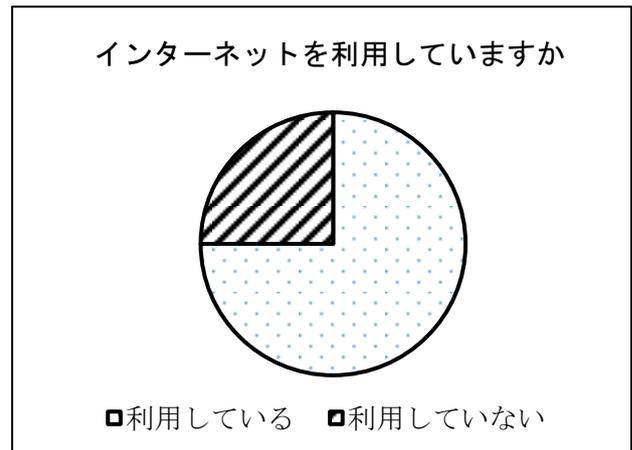
【授業後の児童の感想】

- ・お母さんのたまご、お父さんのもとで、子供が生まれてくるから、どちらかがいないと、存在しないので、たまごもとは大切だと分かりました。いのちを大切にしたいです。
- ・多くのいのちのつながりがあって、今のぼくがいることが分かった。
- ・自分もいのちをつなげるために健康でいたいし、長生きをしてたくさんの人にいのちをつなげたい。お父さんやお母さんに感謝したい。

(2) 意思決定・適切な行動選択

①児童生徒の実態

平成27年度、海津市PTA連合会が行った保護者向けの情報モラルアンケートの結果によると、インターネットができる環境の家庭は99.0%にのぼり、利用状況は、71.0%の利用率である。このことから、インターネットの利用は、小学生の生活の一部になり始めていることが分かる。また、利用目的は、主にオンラインゲームや動画で楽しむことが多く、1日3時間以上使用している児童は6%に上り、このことから生活習慣の乱れが心配される。小学校段階においては、体に与える影響に触れながら、インターネットの使用についての約束事を自己決定していくことで、適切な行動選択ができるようにする必要がある。



【平成27年度海津市情報モラルアンケートより】

②実践 小学校第5学年 学級活動「情報とわたしたちの健康」

<本時のねらい>

児童にとって身近な存在であるテレビやインターネット等を利用することで、健康に与える影響について正しく理解し、それを回避するための適切な行動を選択できる。

ア 関心・意欲を高める指導方法

授業の展開部分で提示する教材をパワーポイントで作成した。テレビやインターネット等の利用が、思春期の児童の健康に与える影響を、イラストや写真を用いて作成した。また、思春期に発達する脳の働きや、過激な情報から児童生徒を守る社会的な条例についても、電子黒板を使い説明した。



イ 主体的に学ぶことができる学習活動

【導入】

・事前に行ったアンケートを活用して、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネット等）の利用状況を知らせ、児童の学習意欲を高める。

【展開】

- ・結果を利用し、メディアの長所・短所について考え、比較する場を設定する。
- ・体・脳・心の3つの視点で、健康に与える影響を理解する場を設定する。
- ・自分を大切にするために、情報選択をする上で大切にしたいことを考える場を設定する。

【まとめ】

- ・自分の生活を振り返り、メディア利用時の約束を決める場を設定する。

<児童の約束>

- ・ゲームでお金を使わない。
- ・家の人に聞いてから、使うようにする。
- ・その情報が正しいかどうかを考える。
- ・変なサイトに入らないように気を付ける。
- ・ゲームに年齢制限があることは知らなかったなので、これからは買う前に確認する。

メディアを使用する健康被害を理解することができる。

メディアを使用する時の約束を作ることができる。

<児童の変容>

これらの実践から、インターネットの利用が、健康に与える影響について正しく理解し、「時間を決めてメディアを利用する」や「家族がいる場所で利用する」など、自分に合ったルールを決め、実生活の中で実践することができた。

【授業後の児童の感想】

- ・今の世の中は、ネットやスマホで色々なことが調べられるけれど、体や脳に大きな刺激を与えてしまうので、自分の体を悪くしないように、新聞なども活用したいです。
- ・ほくは、知らず知らずのうちに悪い使い方をしているかもしれないので、しっかりと気をつけたいです。夢中になって視力低下や生活リズムを乱したりしないようにしたいです。
- ・メディアなどの情報はすべてではないから、少しは疑いの心もちたい。やりすぎは体や心に影響があるので、自分で制限できるようにしたい。

③集団指導と関連付けた効果的な個別指導

～偏頭痛を訴え、月に1、2度保健室来室があるA男の例～

A男は、平日4、5時間、休日は食事・睡眠以外のほとんどの時間をゲームや動画視聴に費やし、家庭学習の習慣がなく、就寝時刻が遅い、朝食欠食など生活習慣が乱れていた。

授業後につくったルールには、自分の課題である利用時間の短縮が含まれていた。本授業がきっかけ

となり、本人の意識、担任や養護教諭からの声かけ、保護者とのルールの共有ができたことによる見守り、励ましなどにより、生活習慣が整うようになった。その後、家庭での学習習慣が身に付き、偏頭痛での来室がほとんどなくなった。

(3) コミュニケーション能力

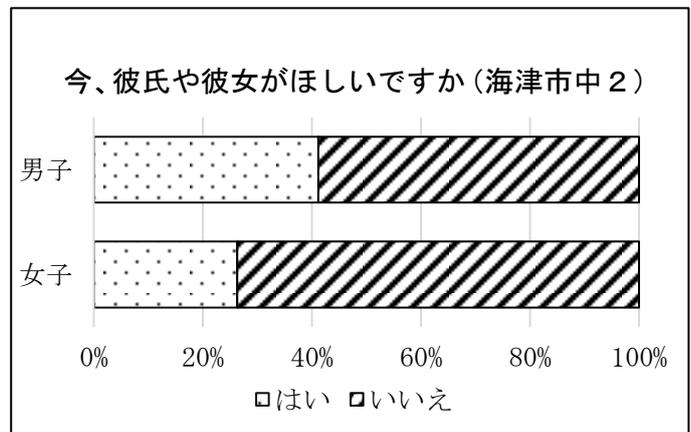
①児童生徒の実態

授業前に異性との関わり方に関するアンケートを実施した。

<アンケートの内容>

- ・異性の誰かと親しくなりたいか
- ・異性の友達はあるか
- ・異性と話すと緊張する時があるか
- ・中学生の1対1の交際を認めるか
- ・今、彼氏や彼女がほしいか
- ・相手からされて嫌と思うことをされた時、はっきり断ることができるか

学校によって結果は異なるが、「中学生の1対1の交際を認めるか」という質問で男女ともに75%以上の生徒が認めるという結果になった。実際に男女交際をしていることを隠すことはなく、校舎内を男女でいる生徒の姿もある。しかし、「異性の誰かと親しくなりたいか」、「異性の友達はあるか」、「異性と話すと緊張する時があるか」という質問の答えに異性間で差が生じた結果になった。



中学生の時期は心身の発達が著しく、それに

伴い個人差はあるが、性的なことに関しての関心が急速に高まる時期である。そこで、人との関わり方を考え、互いに相手を思いやる態度を持ち、より良い関係を築いていこうとする態度を育成する必要がある。

②実践 中学校第2学年 学級活動「望ましい男女の関わり方」

<本時のねらい>

互いの良さを伸ばし合うような異性との関わり方を考え、適切な意思決定や行動選択への意識を高めることができる。

ア 関心・意欲を高める指導方法

異性との関わりを表した次の10個のキーワードを自分の考えた関わり方の順に並べた。

話す 連絡をとる(メール・LINE) 電話をする 告白をする(される) 手をつなぐ
出会う キスをする 好きになる 肩や頭に触れる 一緒に二人で遊ぶ

より実態に合ったものになるように、グループ活動に用いる異性との関わりを表した10個のキーワードについて担任と吟味した。

個人で考えた後、男女別のグループで考え、一つの順番にまとめた。その後、全体場で考えを交流した。交流したことで、個々や男女では考え方や感じ方が違うということを実感できるようにした。



イ 主体的に学ぶことができる学習活動

【導入】

・男女の関わり方に関するアンケートを提示して男女の間に考え方の違いがあることに気付かせ、生徒の学習意欲を高める。

【展開】

・個→グループ→全体交流という流れで、10個のキーワードの関わり方の順番と、なぜそのように考えたのか交流する場を設定する。

・意見交流の場では、男女の考えを比較し、考え方の違いについて互いに述べられるようにする。

・特別な関係（カップル）になってからする関わりと、友人関係とする関わりについて、男女間に違いがあることを理解し、異性との関わり方について考える場を設定する。

【まとめ】

・異性と関わる上で大切にしてほしい4点について伝える。

言葉で伝える

憧れだけで行動しない

男女の考えは異なる場合があることを理解する

相手や周りのことを考える

異性と関わる時に大切にすることが理解できた。



男女の関わり方について

2年 組 番 氏名 _____

課題：異性との関わりで大切にすることを考えよう。

★下の10個の異性の関わり方を自分の進めたい順番に並び替えてみよう。
同時進行でもかまいません。

話す 出会う 肩や頭に触れる 連絡をとる(メール・LINE) 手をつなぐ
キスをする 好きになる 電話をする 2人きりで遊ぶ 告白をする(される)

① _____ ⑩

★自分が考えた順番をグループで話し合ってみよう。
そして中学生ならどこまで進めても良いか考えよう。

★今日の授業の感想を書こう。



★今日の授業の振り返りをしよう。(Oで囲おう)

①積極的にグループワークに参加することができた? (できた・少しかけた・できなかった)
②異性と関わる時に大切にすることが理解できた? (できた・少しかけた・できなかった)

<生徒の変容>

グループワークで意見交流することにより、男女の考えの違いに気付くことができ、相互理解が深まった。授業後の感想には、異性と関わる上で大切にしてほしい4点と関わらせて自分の考えをまとめることができ、適切な行動選択をしようとする生徒が増えた。また、同性との関わりでも大切にしていきたいという感想もあり、異性との関わりという入り口から、互いに相手を思いやる人間関係が大切であることに気付くことができた。



【授業後の生徒の感想】

○言葉で伝える

・考え方が違うから、心の行き違いで困ったことにならないように、言葉できちんと相手に伝えることや、自分の意志で動く気持ちが大切だと分かった。

○憧れだけで行動しない

・軽率な行動で、事件につながることもあることが分かった。
・楽しさだけを優先したり、目先のことだけにとらわれたりせず、先のことも考えて選択し、行動していきたい。自分にとっても相手にとっても良い選択をゆっくりと選んでいきたい。

○男女の考えは異なる場合があることを理解する

・僕はみんなの考えとは違い、二人きりで遊ぶ時は告白より後だし、肩や頭に触れることは告白より前なので、そういう考えもあるんだと分かった。男女の考え方は同じではないことが分かった。
・アンケートの結果等から男女の考え方には、異なる点が多くみられる。だからこそ相手と周りのことをよく考えることが大切だと思った。

○相手や周りのことを考える

・相手のことを考えて、落ち着いて冷静に判断して行動していきたい。
・周りや相手のことを考えて行動するというのは、友達同士でも同じこと。
・付き合うということは2人だけの問題ではない。周りの人へも色々な気配りが必要だと思った。

③集団指導と関連付けた効果的な個別指導

～教室へ行きたくないB子の事例～

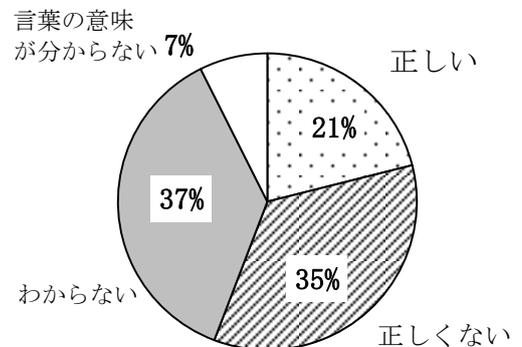
B子は、体調不良や食欲不振で保健室への来室を繰り返していた。しかし、本当の来室理由は、交際している男子生徒との関係がうまくいっていないことであった。養護教諭と話をする中で、本授業をきっかけとし、自分の気持ちを整理できるように促していき、自分で解決することができた。

(4) 正しい知識

①児童生徒の実態

授業前にエイズを含む性感染症に関するアンケートを実施したところ、誤った知識をもつ生徒や「分からない」と答える生徒が多く、正しい知識が定着していないことが明らかとなった。アンケートの中で、高校生で性的接触をもつことに肯定的な生徒が半数以上いるが、将来自分が性感染症に感染する可能性があるという危機感をもつ生徒が全体の約15%と性感染症への危機意識が低い。性に関する現代的な課題として、若者の性のネットワークの広がりが懸念されている。誤った情報から危機(リスク)意識が欠如し、エイズを含む性感染症、望まない妊娠の増加が危惧されており、性感染症について正しく理解し、適切な行動選択につなげる必要がある。

HIV感染者が使用した食器を使うと、自分も感染する可能性がある。(海津市中3)



②実践 中学校第3学年「性感染症予防教育」

<本時のねらい>

エイズを含む性感染症について正しく理解し、それらを予防する適切な意思決定・行動選択ができるようにする。

ア 関心・意欲を高める指導方法

エイズを含む性感染症の現状等についてパワーポイントを作成したり、DVDを活用したりして、視覚的に理解できるようにした。また、性の問題は自分にも関係のある問題として捉えられるようにした。

イ 主体的に学ぶことができる学習活動の工夫

<1時間目> 本当のことを知っていますか? ~性感染症・HIVについて~

生徒がリラックスして授業に参加することができるように、エイズを含む性感染症についての〇×クイズから始めた。

そして、養護教諭の専門性を生かし、エイズを含む性感染症についてパワーポイントで説明したり、DVDを視聴したりして、知識を深めた。事前アンケートで、「将来自分が性感染症に感染する可能性があるか」という質問に、「全くない」「あまりない」と考えている生徒が、全体の45%いたため、自分たちにも感染する危険性が十分あることや性的接触をもつことにはリスクが伴うということを認識できるようにした。



<2時間目> 性的接触をもつ上で大切だと思うことを考えよう

「高校生になったら、性的接触をもってもいいのか？」という事前アンケートの結果を提示し、性的接触をもつ上で、大切にしていきたいことを考える場を設定した。はじめに、次の10つの中で、性的接触をもつ上で大切だと思うことを個人で考え、重要だと考えた順を表にしてまとめた。

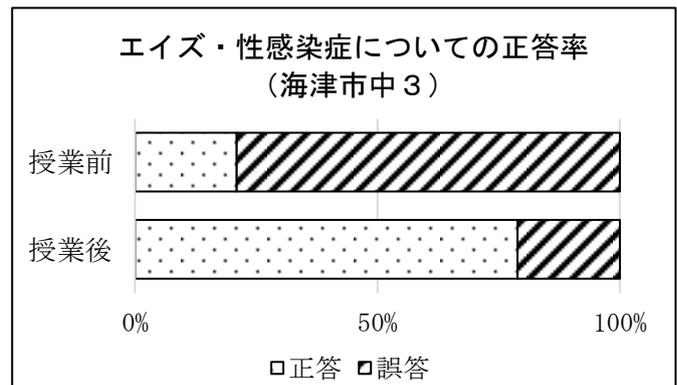
責任・愛・結婚・避妊・性欲・経済力・思いやり
正しい知識・育てる能力・赤ちゃんが欲しい



次にグループで意見をまとめ、表にした。全体の場で、なぜその順になったのかをグループごとに発表を行い交流した。価値観が一人一人異なることを認識することができた。そして、自分の思いだけでなく、相手の思いを大切にしたいと感じる生徒が増えた。

<生徒の変容>

授業後のアンケートの結果、エイズを含む性感染症に関する知識の正答率が21.0%から、78.9%に上がった。また、高校生で性的接触をもつことに対して、慎重に考えた方がいいとする生徒の割合が増えた。正しい知識を得ることで、自分も相手も大切にしたい責任ある行動をとりたいと考える生徒が増えた。



【授業後の生徒の感想】

- ・性的接触をもつことで性感染症のリスクもあるけれど、性的接触をもたないと未来へと命が繋がっていかないので、正しい知識をもち、責任をもって命をつなげていけたらいいなと思いました。
- ・性的接触をもつ前に、リスクをしっかりと理解し、自分の行動に責任をもつべきだと思いました。
- ・性欲だけで動くのではなく、相手の気持ちも大切にすべきだと思いました。

研究内容2 家庭・地域との連携

(1) 事前の文書による連絡・事前事後のアンケート実施

様々な家庭状況があるため、事前に学習のねらいや内容、時期等を文書で知らせた。アンケートを通して、保護者の立場から心配していることや子どもを取り巻く環境から話題にしてほしいと思うこと等を記入できるようにした。また、特に配慮の必要な児童生徒に対しては、保護者と連絡を直接取り、個に応じた支援や配慮をし、授業内容に生かすことができた。

(2) 授業参観

児童生徒が学ぶ性に関する学習内容を保護者が知ることで、保護者の理解が高まり、協力が得られやすくなるため、授業を保護者に公開した。

小学校第5学年の「情報と私たちの健康」の単元で授業参観を行った後の保護者の感想は、次のとおりである。



【保護者の感想】

- ・インターネットを使える環境が自宅に整ってから、自由に使っているため、約束を決め、見守っていきたいです。
- ・情報を得る方法や、長所や短所などを学んできたことがよく分かりました。情報があふれていて大人でも情報に流されたり、正しいものか分からなかったりする場合があります。実際の生活の中で触れる情報など、親子で話す機会を増やし考えたいと思いました。
- ・同じ話を聞いたということで話題にしやすく、家での約束を再確認することができました。便利すぎる世の中に巻き込まれないように自分の考えはしっかりもってほしいです。

(3) ほけんだより・学校だより

授業の様子や児童生徒の感想等を載せ、学習した内容を家庭に知らせることで、家庭で保護者と共に学習内容を振り返り、家庭で話し合うきっかけになるようにした。

けんきいっぱい えがおいっぱい やさしいっぱい
いのちのつながり特別号 高津市立石津小学校 平成29年2月7日

1月18日に、「いのちのつながり」について、学習しました。

3年生 いのちのつながり

【おらい】
○ 多くのいのちがつながって自分が幸せするいのちのつながりに気づくことで、いのちを大切にしようとする気持ちをもつ。

★自分、家族の役に立っていると感じますか？
★家族の役に立っていると気付いたことがありますか？
お母さんと…声、話し方 お兄ちゃんと…趣味
お父さんと…行動、話 お姉ちゃんと…手、顔
自分とお母さんの人が役立っているところがたくさんありました。

★みんなが生まれるには…
お父さんが持っている「赤ちゃんのもと」
お母さんが持っている「赤ちゃんのたまご」が、出合って、
ほくわしが生まれました。

お父さんやお母さんと役立っているところがあるのは、**みんなのいのちがつながっているから。**

じゃあ、お父さんとお母さんは、**誰**のいのちがつながっているのかな？

みんなのいのちがつながっている女の人を赤色、男の人を青色でぬりました。
お母さんといのちがつながっている人、おじいちゃん、おばあちゃん。
おじいちゃん、おばあちゃんといのちがつながっている人、ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん…
たくさんの人といのちがつながっていました！

この中の、**誰かひとりでもかけていたら、今ここにあなたはいません。**

My health, Your health

3年生 WYSH PROJECT 平成26年11月 日 南康中学校保健室

体育館での2時間の授業、真剣に聴いてくれてありがとう。みんなの感想を読んで、他人事だと思っていたことがそうではないことに、多くの人が気づけたようです。この気持ちも忘れずにいて欲しいと思います。

今回の授業、WYSH (Well-being of Youth in Social Happiness) では、著者の幸せを願い授業をしています。すべての中学校で行われている訳ではありません。みんなが南康中を卒業した時、周りの人は、WYSHの学習をしている人ばかりではありません。その中で、本気で自分や友達を大切にしているかというのは、あなたたち自身。みんなの幸せのために、自分でできる事、しなくては行けない事って何だろう…？

もう一度 HIVとエイズ、性感染症について復習してみよう。

HIVとエイズの違い
HIV=Human Immunodeficiency Virus (ウイルスの名前) 人の免疫の仕組みを壊す働きをする種類のウイルス
AIDS=Acquired Immunodeficiency Syndrome HIVの感染が原因で免疫がなくなり、様々な病気が起こった状態
HIVは、**ヘルパーT細胞**にとりついて、免疫のシステムを壊してしまいます。正常な状態なら問題のないとても弱い病原体もやっつけられなくなってしまう。色々な症状が引き起こされます。感染から発病までの期間が長く、最初に風邪に似た症状や発熱が続くなどの弱い症状なので気づきにくい。

定期的な検診に行けたいの？
自分が感染したかもと思うようなことがあれば病院に行きましょう。一般の性感染症は、病院で治療をすれば治ります。HIVの検査は、保健所や健康福祉事務所でも**匿名**で受けられることができます。

性感染症(STD)
性行為によって感染する病気の総称。現在、性関係を持ったことのある人の10人に1人は感染していると推定されている。若い人の間で増加している感染症。必ずしも自覚症状があるとは限らない病気です。そのため、感染に気づいたときにはすでに多くの人に伝染していることも考えられます。
【主な性感染症】クラミジア・淋菌感染症・トリコモナス・カンジダ

エイズは死に直撃するの？
現代の医学では、まだエイズを治すことはできません。しかし効果的な薬の開発で体内のHIVの増加や病気の進行を抑えることができるようになりました。ただ、治療費は高額です。

病気についてよく知ることが、一番の予防につながります。ただ「知っているだけ」では予防できません。エイズの正しい予防方法を知っていたのに「きっと自分は大丈夫だろう」と考えていたために感染してしまった人もいます。「自分は大丈夫」という思い込みが一番危険なのです。一度の性的接触で感染する可能性があります。HIVの感染力は強くありません。でも、実際には、たった一度の性的接触で6人に1人も感染した人もいます。お互いに、どんなに相手を大切に思っても、予防をしないと感染してしまうこともあるのです。

(4) 地域との連携

① 「あったかい絆宣言」

海津市では、ネット被害から子供たちを守り、健全な育成を願い、児童生徒、保護者、学校、地域が連携を図って作成した情報モラルの約束を含んだ「あったかい絆宣言」を配付している。

この「あったかい絆宣言」を小学校5年生「情報と私たちの健康」の単元において、授業のまとめに活用した。児童がメディアを利用する際の約束を考え、家庭での見届けを依頼した。

情報と私たちの健康 (ワークシート)

5年 組 番 名前 _____

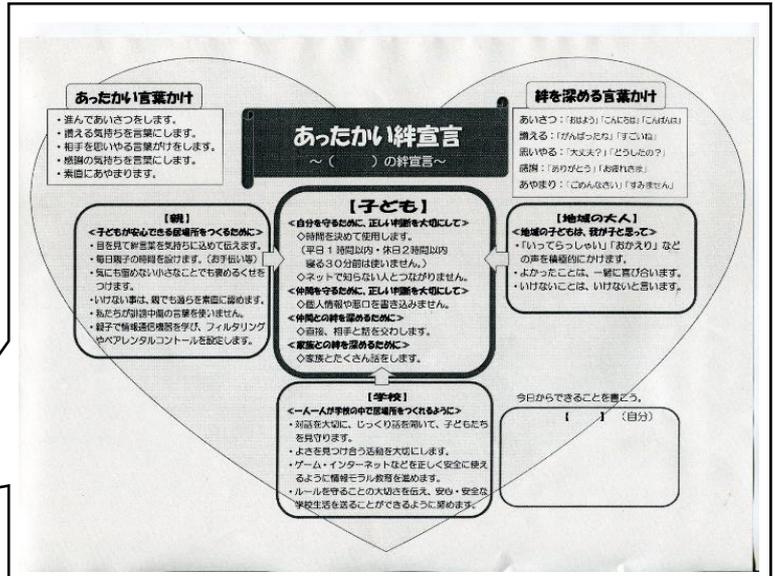
課題 _____

(1) テレビ、新聞、まんが、インターネットの長所と短所を書きましょう。
長所 (よいところ) _____ 短所 (よくないところ) _____

(2) 必要なることを書きこみましょう。
 体へのえいきょう< _____ の _____ >紙下
 < _____ >かびん性発作
 < _____ >紙下
 脳へのえいきょう< _____ >脳
 < _____ >脳
 心へのえいきょう< _____ の _____ >の思れ
 < _____ >な行動
 < _____ >と区別できない

(3) 情報を得たり、情報を利用するとき (メディアとの付き合い方) の、自分のめあてを書きましょう。

<あったかい絆宣言>



② 「こころといのちの講演会」

思春期・青年期の自分自身を大切にしたい気持ちや自らの「生」を見つめ直すきっかけにすることをねらいとした講演会が、海津市内の中学校で、社会福祉課と共催で実施されている。

～いのちがここにある奇跡 今、あなたがいる奇跡～

講師：助産師・思春期保健相談士 内田美智子氏



7 成果と課題

<成果>

- 児童生徒の発達段階や他教科との関連を考慮した「性に関する指導計画」を作成することで、9年間を見通した意図的・計画的な指導を行うことができ、正しい知識が定着している。
- 「性に関する指導計画」を適宜見直していくことで、児童生徒の実態に合った指導をすることができた。

○養護教諭の専門性を生かして作成した図や絵を用いた資料、プレゼンテーションを提示することで、視覚的に理解しやすく、興味関心を高め、正しい知識を習得でき、適切な行動選択をしたいとする児童生徒が増えた。

○グループ活動を通して、自分の考えを仲間に伝えたり、仲間の考えの違いを受け入れたりすることができ、より良い関係を築くためには、コミュニケーションが大切であることを理解することができた。

○授業前後に保護者向けに学習内容を知らせることで、保護者の理解と協力を得ることができ、児童生徒が安心して授業を受けることにつながった。また、授業参観で性に関する指導を行うことで、保護者の協力を得ることができ、児童生徒が「自分は大切な存在である」「一人一人誰もが大切な存在である」ということをより感じるすることができた。

○授業を公開し、親子で学習内容を振り返ることで、メディアの利用時間を短くして睡眠時間を増やすなど、生活習慣の改善に生かすことができた。また、授業内容をほげんだより等で知らせることで、性に関する内容を親子で話すきっかけとなった。

○授業を生かした個別指導を行うことで、児童生徒の行動の変容につながった。

<課題>

- 性に関する児童生徒の実態と今後直面するであろう課題を踏まえて指導内容を工夫し、学校・家庭・地域と連携を図ることで、さらに適切な行動選択をする力を育てる指導を充実させていく。
- 学校生活において、相手を思いやるよりよいコミュニケーションの在り方を考える指導の充実を図る。

<参考文献>

- ・河野美香（2005）「学校で教えない性教育の本」 筑摩書房
- ・木原雅子（2014）「WYSH教育プログラム」 一般財団法人日本こども財団
- ・清川清基・内海裕美共著（2009）「メディア漬け」で壊れる子ども達 少年写真新聞社
- ・藤田龍也編著（2006）「Netモラル～教室でだれでもできる情報モラル教育」 三省堂
- ・森 昭雄（2006）「元気な脳のつくりかた」 少年写真新聞社
- ・坂井建雄（2000）「脳のふしぎ」 河出書房新社
- ・岡山市小学校保健部会Aブロック保健部「いのちとこころに向き合う性教育（小学校）」 東山書房
- ・健康教室臨時増刊号（2014）「性教育・実践のファイル」 東山書房
- ・田村 通子（2006）「いきいき性教育カラフルアイディア教材」 東山書房
- ・千石一雄・青木智恵子（2012）「生まれてよかった」 黎明書房
- ・藤田和也（2008）「養護教諭が担う『教育』とは何か」 農文協
- ・尾藤りつ子・性と生を考える会編著「性と生をどう教えるか」 解放出版社